

笑い ベルクソン, 光文社古典新訳文庫

笑いの原因が笑われる側の内面にあること

機械的である

- ・硬直している - 物質的 (生きている緊張感がない)
- ・繰り返しても - イミテーション
- ・自動作用 (習慣性)

生きている

- ・緊張がある
- ・弾力性がある

内面化 想像力

機械的のものから機械的でないものへ

① 両者の結合が「自明の事実」になる

笑いが生まれる(?)

方向性1.

被せられている → 硬直的な生のイミテーション

例)

自然	機械
社会	規則, 習慣

この意図がある
機械性の緊張の型
内面に

→ 性格
例の原因を
意識して
→ 自然

→ 精神 → 性格
例の原因を
意識して
→ 自然

例) 変装

方向性2

身体=生きているものを詳細に見る精神が生きているものの肉体が機械的になる

機械的のものに注意が向いてしまふ

出来事にはおかしさがある p.178

生きているもの	機械的のもの
精神	肉体
内容	形式

p.80 悲劇では肉体欲求が登場するおかしさがある

方向性3 「機械的のもの」と「事物一般」に拡張してみよう

生きているものを事物と同一視する視線に同化していく過程

例) 反復法, 擬物表現

方向性4

例) 変装

2章

行動、態度、形

対象 ^{そのもののまがしさが}
いまだ状況も含めを分けて

① p.105 何故か 抑圧 自動作用 出来事、コンテクスト
縮もつて圧縮された感情 (機械的) 圧縮はいつ感情 対峙する状況
ばね 抑さえている手 話を続けたら
繰り返され 問ひが 紳士のじある こと態度
人間嫌いの感情

② 系で繰られている状況 p.111
自由に話していると思、しているが
生 実はもてあそばす他人の手の中にある状況
機械

③ 雪がふる形式 p.114
・機械的な連鎖反応と増幅の形式
p.119 原因が結果に厚、てくる円環が交差してはまっている
・一堂々巡り
・出発点に戻、てくる (=水辺を渡す)

ものゝ
ものゝ
見出される

出来事の配置に 4 機械的な パター-ン
を感じることもしうさを感じる

なぜ? 生の緊張を緩めてくれるから

生の緊張が 緩んでいっているから
p.124 機械的な パター-ンに 沿、て出来事が
状況が 起、て

p.124 笑ひとは、人間が出来事にみられる 或る特殊な
緊張の緩みを 際立たせ、抑制するもの

Q. 生を単純な 機械 と 置くものの ように見せる (性格
とは何か? 外面的
どう見えるか? 実際どうかは?)
(逆に 生を 機械 の ように見せる 手法 が 喜劇・おかし
である)

A. 時間的には、連続的 かつ 不可逆 に 変化する性格
空間的には、閉鎖的な ネットワーク する要素
系内部で 相互依存する

✓. p.131 和自然に見せる 手段の 違い
交換可能な 機械の 部品 p.142

出
を
な

p.1

p.124 笑ひ 状況
集る

Q. 生
と

(逆) ともいえる

A. 時
空

✓. p.

1. 繰り返し

現象の不可逆性をくつ返す。
・場面のかくり返し

物語

文脈をたてて
くつ返す

セリフ

荘厳なシーンの~~場面~~を
平俗なシーンでくつ返す

2. ひくくくく

系の相互関係をくつ返す
・役割が入れ替わる

3. 系列間の相互交渉

系列をある個人の出来事の連鎖
と個人

相互交渉
取り違へ

- 致

本来
無関係な

今あるの | 出来事の連鎖
音の

p.140 集団が別のイベントに

参

羽巻も込められ

連鎖ゲーム

p.144

言葉のまかし (≠言葉を発した人に対するまかし)
≠言葉により表現されるまかし

= 言葉により創作されるまかし

1章のまかしを言葉に適用する

文切型に

- ① 定型句、ことわざ を ~~発生~~ 場面? のものに適用
- ② 比喩を 本義として 理解 しています p.157
精神 肉体 発展

「お湯 かけた」「じい あ 命も 賭けるよ」

(系列間の相互交渉)

「義熱意みせて」「まだ ち ら、て 軽 い て な い ん ア け て」
生 物質化

p.160 詩し午の発言を字面通り受けとること
詩し午の意図と真逆の解釈をする

- ③ 繰り返し / ひくくくく / 相互交渉
・物語 p.168 ・因果の反転 ・だじい
・SとOの反転

詳しく

・低劣化 (本来高位なものを低位なものでも繰り返す) → パロディ
・誇張 (低位: 高位:)
・サバサバ 現実 → 理想 理想 → 現実 アイコ

p.160

③

p.187,8 Q. 共感を引き起こさせる技術とは?

A. 2つあるが独立している

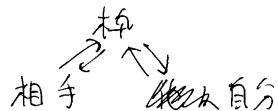
① 感情に飲み込まれる
(笑いの対象となる人物が)

・ 人物固有の性格ではない?
部分的 - 時限的なもの?

② 行為 (= 意志と目的を伴った行動) ではなく
身振り (= 無意識の動作) に注目させる
= 態度、体の動き、セリフ

p.194 自動作用 $\left\{ \begin{array}{l} ① \text{ 無感動} \\ ② \text{ 非社会性・硬直性} \end{array} \right.$

p.197 お互いの性格とは
性格ある類型(枠)に分類される
当人は気づいていない
もの



- ・ 枠を通して自分をくり返している
- ・ 他者が枠を通して自分をくり返すことができて
→ p.253

枠にあてはまる事物
を想像する(ランニカ)

p.199

Q. (

A. ? 性格

p.201 身

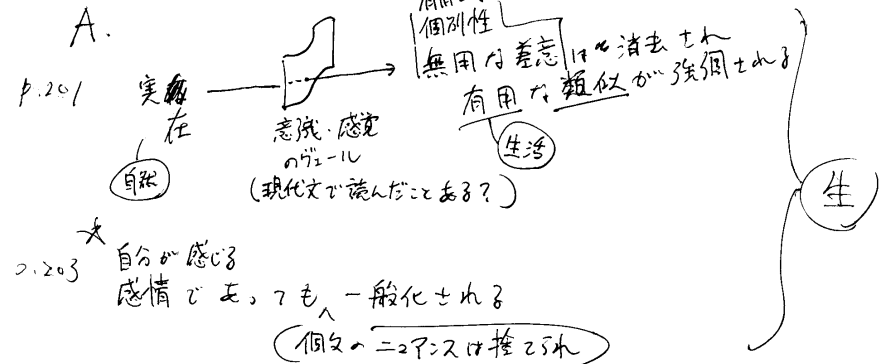
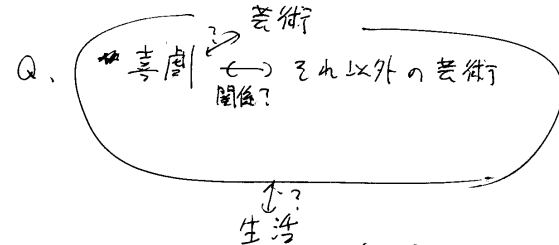
自然

★ 自然
感情
自然

(言語化
しにくい)

p.207 芸術

p.199 喜劇の目的とは、より一般的に性格の類型を
描き出すこと



★ 自然
感情
感情であるものを一般化する
(個性 = アースは捨てる)

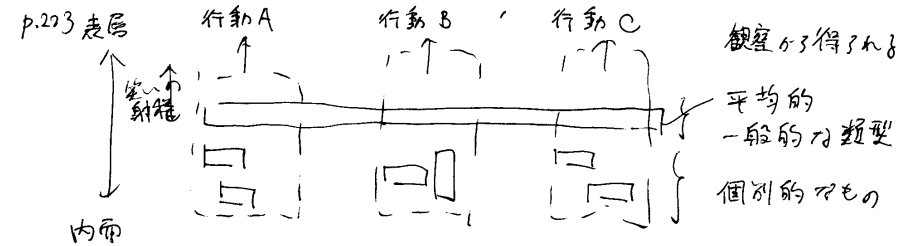
(言語化しにくい感情を味わうためにある状況に身をまかせ)

p.207 芸術の目的 = 生活
實用の上で有用な象徴や
慣習や社会によって受け入れられている一般性
を取り払い、実在そのものに直面させること
私生活を

p.208 観念論と実在論

p.208 観

以下判断



p.213 芸術は常に 個別のもの をめざす
、一時的・個人的・局所的

p.213 (芸術の) or 作品自体
対象物は 個別的 だが、わたしたちが対象物について 以下判断
215頁は 普遍的 である。

↑ 喜劇は 喜劇以外の芸術と対立する

喜劇は 作品が 一般的 な類型を描くことを
目的としている (承前 p.199)

p.216 喜劇は主人公と周囲の人物が 同じ性質 を
共有していることが多い (→ 個性 を意図的に
失わせる
& 類型を強調する)

p.220 悲劇: 作者が 内省 を深めて、ありえたかもしれない自己
の可能性 ("後数化") をもとに主人公を作る
選択

p.223 喜劇: 人間観察 (← 自分自身の笑いをもちやす 他人 は
意識できるものではない by def. だが)
表面のみの 観察 (個人的
原因) 共感している
表面のみの観察 (個人の 内面 にふたをかけることで、
行動のみ評価)
すること 一般的 な 結果 がでる
類型化

p.223 表

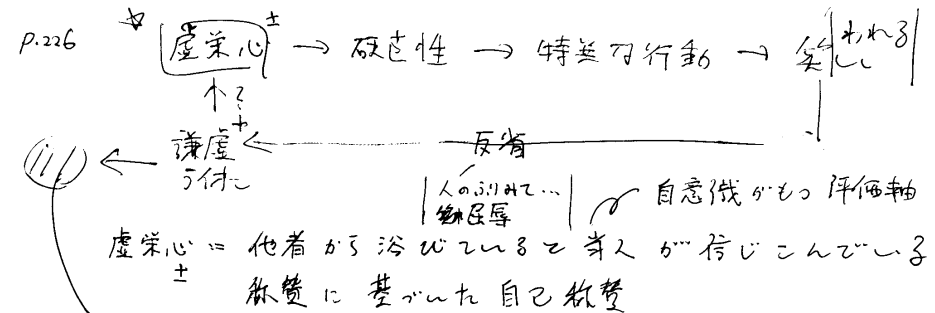
内面

p.226

ない自己

他人は
かす)

内面
p.228以下で、



p.228 焦点が定まり、この人 自尊心 を
自分自身の十全な意識に呼び戻すこと

p.232 社会が提供する性格類型
→ 職業的虚栄心 = 有用性が認められる職業が
その職業のために公衆から
つとめられている (転倒) と
想定することによって、その
存在を正当化されている

p.232

p.23

b.23

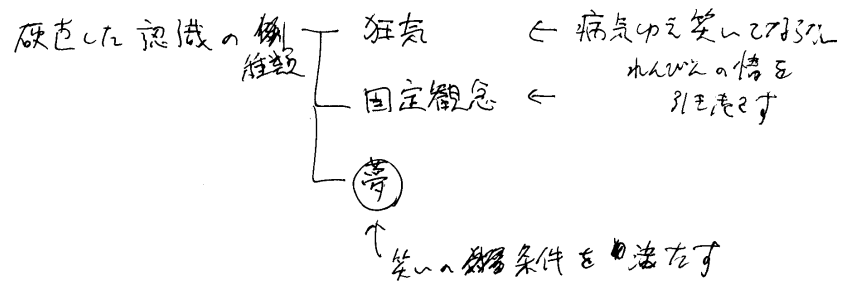
書き出す

(ベルグソン曰笑いの続も)

p.238 (他の説) 不条理が笑いを産み出す
↓ ベルグソンは反論 全くの不条理が笑いを産み出すわけではない

p.239 不条理は(笑いの)原因ではなく結果である

- ・ 硬直した認識(推論) ~~を~~に 合わせて
事物を成型しようとする (風車を巨人で思う)
- ・ 良識 (錯覚)
良識 := 対象が変わると観念を変えること
決して適用し続ける



p.253 笑 (応答)

☆ 今

笑いの連鎖
身への情を
表現する

p.254 良

す

p.255 良

p.262 批

p.253 笑いは 社会が与える類型(-) に 反省 修正を要求する
応酬

↓ 笑いは ぶつけ(-) なのかな?

☆ 笑いを促す人物が、自身のなかにある笑いを
消すものを相手も面白がるように促す。
相手は(一時的である) 斬る人物の
身振り・発音・行為を採り入れる

p.254 良識(p.239)を維持する労苦から解放して

知的緊張

p.291, 303

弛緩

共通している?

p.255 弛緩した人 → 一瞬の共通 → 弛緩を → 相手を
弛緩の伝播 修正 笑

p.262 批評に注意
ベルグソンの弛緩の定義は、
必要条件であるが十分条件ではない
ベルグソンの定義
よらそ
×
弛緩の定義は、
弛緩の連鎖条件を逸らす

p.293 自嘲 - ペシミズム

p.303 共感には笑え付く。しかし笑うとき一瞬共感する

